

# 意志あるところに道は開ける

## 総務省への入省を志したきっかけを教えてください。

「まちづくりに携わりたい。自分の理想の街をつくりたい」。これが私の夢、公務員を目指した理由です。

元々は地方公務員志望でしたので、地方自治体への就職と本当に悩みました。

決め手は、将来現場で自分がやりたいことを実現するために、行政マンとしての確たる「土台」がないといけないという思いでした。仕事はハードかもしれないけれど、業務を通じて制度を学び、ここでしか経験できないことが自らの成長につながるのではないかと、そう考えたためです。

## これまでで、もっとも印象に残った業務を教えてください。

福利課企画係長時代に携わった幾度もの法令改正です。

法令改正に当たっては内閣法制局の厳しい審査を受けなければいけません。しかしそれまでの私は法制執務の経験ゼロ。しかも所管している地方公務員等共済組合法は、数ある法令の中でも難解な年金・医療保険の法律。

内閣法制局の審査では毎回入念に準備して説明に臨むも、思いもよらない鋭い質問に汗びっしょりになりながら対応することもしばしば。自分のふがいなさに悔しい思いも何度もしました。

一方で、これらをつ一つ乗り越えていく中で「ここで培った、法令を読み解き適切に運用する力は今後必ず自分の強みになる」と自信をつけたのも事実です。

## 地方自治体出向時の経験を聞かせてください。

「最初の2～3ヶ月間で目に見える成果を出さないと、市民

から『あの人ではダメだ』と烙印を押され、とてもやりづらくなる」。阿久根市副市長として赴任する際の県関係者からのアドバイス。正直、不安しかなかったです。

思い出深いのは市政の大きな課題であった「サービスエリア等建設構想」。地元経済界の総意で、建設が進む新高速道路に物産館を併設したサービスエリアを建設してほしいという市への要請。赴任当時、要請から1年が経過し停滞していました。

まず着手したのが実現可能性の吟味。制度も一から調べました。

その結果、新たな道の駅整備構想として仕立て直し。防災機能、近隣市町の参画など他にはない強みも盛り込みました。

整備促進を図るための協議会組織も立ち上げ、赴任から3ヶ月が経過した、とある宴席でのこと。商工会議所会頭から「実現に向けた大きな一歩だ！さすがだ」と皆さんの前で高く評価していただき、「成果を認めてもらえた」とほっと胸をなで下ろしました（笑）

## 役職がステップアップする中で、係員時代と比べてどんな違いがありますか？また、お仕事をやる上で心がけていることはありますか。

大事にしているのは「チームワーク」です。

特に政府全体の大規模な法改正で痛感したのは、限られたマンパワーであっても決められた期限までに必ず仕上げなければならないこと。係長として今、誰に何を指示して自分自身は何をすべきか。そのことを常に考えながら自らも走る、そんな毎日でした。

これは副市長時代も変わりません。一人で出来ることは限られているし、私一人で突っ走ってもいけない。大事なのは組織としていかにパフォーマンスを発揮するか。そこで副市長室にホワイトボードを持ち込み、職員と一緒に議論する場を大切に

しました。「どうすればうまくいくか」をみんなで考え、そして失敗を恐れず実行に移す。全国公開された映画のロケ地誘致成功とフィルムコミッションの立ち上げ、各家庭への保健師の担当制による子育て支援コンシェルジュ事業の創設、国保診療所の経営黒字化への取組など副市長室から多くの施策が生まれました。

## 受験者へのメッセージをお願いします。

私は「人生に無駄なし」だと思っています。

将来何がどこで役に立つかわからない、だから、どんな仕事でも与えられた環境でまずはやってみる、目の前のことに全力で取り組む、そんな姿勢が大事だと思っています。

まちづくりに携わることが私の夢でしたので、市職員とともに議論し一緒に汗を流した副市長の4年間は、かけがえのない、まさに夢の時間でした。

「意志あるところに道は開ける」。次は是非、あなたの夢をかえてください。



自治行政局公務員部  
福利課数理官

春原 善幸

Sunohara Yoshiyuki

## 入省後の略歴と職務内容

2001年～2002年

奈良県企画部地域政策課、  
総務部市町村課

県庁は奈良公園の隣で、窓の外に見えるのは興福寺の五重塔。明日香村整備計画など古都奈良ではの業務に従事

2005年～2006年

総務省自治行政局選挙部  
管理課選挙啓発係長

大手広告代理店とタイアップ、メディア・広告媒体を駆使した選挙啓発事業を展開

2006年～2008年

国土交通省都市・地域整備局  
企画課企画第二係長、  
まちづくり推進課  
担い手活動推進係長

民間企業による都市再生プロジェクトに対する支援。完成物件を眼前にして思うのはこれぞ「地図に残る仕事」

2009年～2012年

総務省自治行政局公務員部  
福利課企画係長

社会保障・税一体改革、被用者年金制度の一元化…法令改正と国会対応と各省調整とに奔走

2014年～2015年

総務省自治行政局公務員部  
公務員課給与与能率推進室  
主幹・課長補佐  
(併任)安全厚生推進室課長補佐

東日本大震災の復興に従事する自治体職員のメンタルヘルス対策事業の創設。国会議員レク対応も経験

2017年～2020年

鹿児島県阿久根市副市長

人口約2万人の港町。まちのどこに居ても市民から気さくに声をかけられる。人の温かさに触れた4年間

2021年～

総務省自治行政局公務員部  
福利課数理官

地方公務員の共済制度における保険数理部門を担当。資金運用に関する知識も習得中